



モーツァルト室内管弦楽団 第132回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 132. Regulärkonzert

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第6回

〈2009年 没後200年 ハイドン・シリーズ〉第10回

オラトリオ《四季》

„Die Jahreszeiten / The Seasons“

2009年12月13日(日) 午後2時 ■ いずみホール

Sonntag, 13. Dezember, 2009, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

■主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>

■協賛：いずみホール(財団法人 住友生命社会福祉事業団)

■マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: artists@gol.com

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503



モーツァルト室内管弦楽団

第132回定期演奏会

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第6回

〈2009年 没後200年 ハイドン・シリーズ〉第10回

ハイドン最後の超大作

ハイドン：オラトリオ《四季》

„ Die Jahreszeiten / The Seasons “

(日本語字幕付／制作：門 良一)

ハンネ：木村 能里子 (ソプラノ)

ルーカス：西^レ田 俊朗 (テノール)

シモン：田中 勉 (バリトン)

合唱：モーツァルト記念合唱団

合唱指揮：益子 務

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団

コンサートマスター：釋 伸司

コンティヌオ・チェンバロ：田中 実子

指揮：門 良一

2009年12月13日(日)午後2時 ■いずみホール

第1部 《春》

- No. 1 序奏とレシタティーヴォ(シモン、ルーカス、ハンネ)「見よ、厳しい冬が去っていく」
- No. 2 村人たちの合唱「おいで、優しい春よ」
- No. 3 レシタティーヴォ(シモン)「天の牡羊座からいま明るい太陽が」
- No. 4 アリア(シモン)「農夫はいま喜び勇んで畑へ」
- No. 5 レシタティーヴォ(ルーカス)「農夫はその仕事を終えた」
- No. 6 三重唱と合唱「慈悲深い天よ、お恵み下さい」
- No. 7 レシタティーヴォ(ハンネ)「私たちの願いは聞き届けられました」
- No. 8 三重唱と合唱「おお、なんとすばらしい野原の景色でしょう！」

第2部 《夏》

- No. 9 序奏とレシタティーヴォ(ルーカス、シモン)「灰色のヴェールに包まれて柔らかい朝の光が現れる」
- No.10 アリアとレシタティーヴォ(シモン、ハンネ)「眠りを覚ました羊飼いは」
- No.11 三重唱と合唱「昇ってくる、太陽が」
- No.12 レシタティーヴォ(シモン、ルーカス)「いままわりのすべてのものが活動し」
- No.13 カヴァティーナ(ルーカス)「自然は重圧にあえいでいる」
- No.14 レシタティーヴォ(ハンネ)「さあ、暗い森にようこそ」
- No.15 アリア(ハンネ)「なんとという爽やかな感じでしょう」
- No.16 レシタティーヴォ(シモン、ルーカス、ハンネ)「おお、見よ！蒸し暑い空気の中で」
- No.17 合唱「ああ、嵐がやってきた！」
- No.18 三重唱と合唱「黒い雲は遠ざかり」

* * *

第3部 《秋》

- No.19 序奏とレシタティーヴォ(ハンネ、ルーカス、シモン)「はじめに春が花を咲かせて約束し」
- No.20 三重唱と合唱「このように自然は勤労に報いてくれる」
- No.21 レシタティーヴォ(ハンネ、シモン、ルーカス)「ごらん、あそこのハシバミの繁みの方へ」
- No.22 二重唱(ルーカス、ハンネ)「町から来た美しい人よ、こちらへおいで」
- No.23 レシタティーヴォ(シモン)「いまむきだしになった畑に」
- No.24 アリア(シモン)「広い草原を見渡してみよ！」
- No.25 レシタティーヴォ(ルーカス)「こんどは野うさぎをねぐらから」
- No.26 合唱「聞け！この大きな響きを」
- No.27 レシタティーヴォ(ハンネ、シモン、ルーカス)「ぶどうの木にはいま美しいぶどうの房が」
- No.28 合唱「ヤッホー、ワインだ、樽はいっぱいだ」

第4部 《冬》

- No.29 序奏とレシタティーヴォ(シモン、ハンネ)「いまや色あせた年は沈んでいく」
- No.30 カヴァティーナ(ハンネ)「光と命は衰え」
- No.31 レシタティーヴォ(ルーカス)「広い湖も凍りつき」
- No.32 アリア(ルーカス)「旅人がいまここで途方にくれて迷っている」
- No.33 レシタティーヴォ(ルーカス、ハンネ、シモン)「旅人が近づくやいなや耳に聞こえてきたのは」
- No.34 合唱つきりート(ハンネ)「糸車よまわれ！」
- No.35 レシタティーヴォ(ルーカス)「糸を紡ぎ終わって糸車ももう止まった」
- No.36 合唱つきりート(ハンネ)「あるとき、名誉を重んずる娘が」
- No.37 レシタティーヴォ(シモン)「乾燥した東のほうから身を切るような氷の息吹が」
- No.38 アリアとレシタティーヴォ(シモン)「これを見るがよい、惑わされた人間よ」
- No.39 三重唱と二重合唱「さあ、大いなる朝がやってきた」

王道を行くハイドン、69歳の奇蹟《四季》

ハイドンは60歳になろうというときにロンドンへの大演奏旅行を挙げる。旅行は2回にわたり、あしかけ5年に及んだ。ハイドンにとって人生で空前絶後の大旅行であった。ロンドンで自作を次々に発表、大成功を収め、ハイドンの連続演奏会はかの地の一大社会現象とまでなったのである。最初のロンドン滞在中、ハイドンにとって大変な刺激となる行事があった。それはヘンデル・フェスティバルである。ハイドンはこのとき、《メサイア》をはじめとするヘンデルの代表的オラトリオに接し、大きな感銘を受けた。大いに創作意欲を呼び起こされたハイドンは自分もあのようなオラトリオを書きたいと思い、しかるべき台本をロンドンで探し求めた。その結果持ち帰ったのが、ミルトンの《失楽園》に基づく《天地創造》である。これをヴァン・スヴィーテン男爵がドイツ語に翻訳したものにハイドンは作曲し、1798年に完成を見た。《天地創造》は初演から大評判となり、すぐにヨーロッパ中で演奏されるようになった。ヴァン・スヴィーテン男爵はハイドンに次なるオラトリオの作曲を勧め、自ら台本を書いた。それが1801年完成の《四季》である。これは前作をしのご大曲であり、文字通りハイドン最後の超大作となった。

《四季》は全部で39章からなる（《天地創造》は34章）。その上1章1章が前作より長い。この曲にはハイドンのすべてがあるといってお間違いのない。ヘンデルのオラトリオ様式に学び、《ゴジ・ファン・トゥッテ》や《魔笛》などのモーツァルトの音楽から多くを吸収し、しかもなおハイドンならではの創意工夫に満ちた作品である。ハイドンはモーツァルトも完全にはできなかったヘンデル様式の消化に成功し（モーツァルトがヘンデルを模した《ハ短調ミサ》と《レクイエム》はともに未完に終わっている）、そのモーツァルトの斬新な管弦楽法をも自己のものとして、偉大な総合芸術を生涯の最後に創り上げたのである。まさに古典派の王道を行くハイドンといえよう。

モーツァルトの最後の超大作はなにか、となると議論があろうが、私は《ゴジ・ファン・トゥッテ》だと思う。このオペラは、「諧謔の面白さが最高の域にまで高められて、それが突然人間の真理に迫ってくる」（永竹由幸著「オペラ名曲百科」）という、モーツァルト芸術の本質であるアンビバレンス（両面価値性）の極致と言うべき作品である。一方のハイドンの《四季》においては、勤労の称賛、男女の素朴で誠実な愛、自然への畏敬と信仰、純朴な農民の生活ぶりなど、モーツァルトとは全く逆の、大変まっとうな、人間の本来あるべき姿が描かれている。音楽の豊穡さという点で、これら両作品は甲乙つけがたいが、その内容のコントラストは際立っている。

ハイドンとモーツァルトという二大巨匠を比較する上で、私はモーツァルトの年齢を2倍に勘定すべきだと思うのである。モーツァルトは35歳と10ヶ月の生涯であったから、2倍にすると71歳となろう。ハイドンは77歳まで生きたが、最後の6年間は作曲をしていないのでこれを差し引くと71歳となる。そうしておいて主要な作品を年齢順にならべるとみごとに対応するのである。《ゴジ・ファン・トゥッテ》は1790年1月（モーツァルト34歳）の完成だから2倍にして68歳、《四季》は1801年（ハイドン69歳）の完成なのでほぼ一致する、というふうになる。

こうしてみると、モーツァルトの早熟性と生き方のスピードには今更ながら驚かされる。だが、ハイドンが実年齢の69歳において生涯最高の超大作を書き上げたことのほうがすごいのではないだろうか。ハイドンこそは「大器晩成」の鑑というべき人であって、生涯を着実に歩み、栄光のうちに天寿を全うしたのである。

ハイドンとモーツァルトを並べてみて、最も驚くべきことは二人の完璧なまでの対照性と相補性であろう。生涯においては一方は天寿を全うし、他方は夭折する。性格は一方は常識人で、他人の面倒をよく見、規則正しい生活を送ったのに対し、他方は躁鬱症的性格で金にも女にもだらしがない破滅型であった。そして音楽においては、一方は交響曲と弦楽四重奏曲によって天下の正道を説き、他方はオペラと協奏曲においてアンビバレントな真実を表現した。

モーツァルトは弦楽四重奏曲の作曲に際し、「長くつらい労苦」（《ハイドン・セット》に付けられた献呈の辞）のもとにハイドン様式を吸収したことを隠していない。一方のハイドンはある貴族からオペラ作品の提供を求められたとき、「偉大なモーツァルトの比類なき仕事」には及ぶべくもない、と断っている。同時代の最強のライバル同士が、音楽史上稀な友情と尊敬のうちにあったのは、上記のような二人の対照性と相補性によるものであろう。

だが音楽史の王道を歩んだのはハイドンである。モーツァルトは、言い過ぎを覚悟で言うなら、音楽史の脇道に狂い咲いたあだ花にすぎない。モーツァルトは保守主義者、懐古主義者であって、後継者はいないのである。ハイドンはヘンデルやモーツァルトに学びながらも新しく開かれた音楽を作り、ベートーヴェンをはじめロマン派の多くの作曲家が追随したのである。（2007年12月2日第122回定期演奏会プログラム・ノートより）

『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

門 良一／モーツァルト室内管弦楽団による没後200年記念〈ハイドン・シリーズ〉 全10回の演奏記録

第1回 2007年7月15日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第74回例会

ハイドン／交響曲 第6番 ニ長調 Hob.I-6《朝》
ハイドン／交響曲 第7番 ハ長調 Hob.I-7《昼》
ハイドン／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ハ長調
ハイドン／交響曲 第8番 ト長調 Hob.I-8《晩》
ヴァイオリン：菊本 恭子

第2回 2007年9月30日 いずみホール 第121回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その1

モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K.543
ハイドン／トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob.VIIe-1
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より
コンスタンツェのアリア《私は恋をしていました》
ロッシーニ／《セヴィリヤの理髪師》より
ロジーナのアリア《今の歌声は》
ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob.I-103
《太鼓連打》
トランペット：大西 由起、ソプラノ：成毛 未来

第3回 2007年12月2日 いずみホール 第122回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3(全曲)
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗
シモン(バス)：井原 秀人
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

第4回 2008年3月2日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第75回例会 〈シュトルム・ウント・ドランク(疾風怒濤)時代〉

ハイドン／交響曲 第44番 ホ短調 Hob.I-44《哀悼》
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb-1
ハイドン／交響曲 第45番 嬰へ短調 Hob.I-45《告別》
チェロ：山本 彩子

第5回 2008年6月28日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第76回例会 〈モーツァルトとハイドン〉その2〈ハイドンとモーツァルトのホルン三昧〉

ハイドン／交響曲 第31番 ニ長調 Hob.I-31《ホルン信号》
シュターミッツ／フルート協奏曲 ト長調
モーツァルト／ディヴェルティメント(フルート、オーボエ、
ファゴット、4つのホルンと弦楽のための)ニ長調 K.131
フルート：大江 浩志
ホルン：垣本 昌芳、垣本奈緒子、佐藤 明美、小椋 順二

第6回 2008年9月27日 いずみホール 第125回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その3

モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K.425《リンツ》
ハイドン／ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob.XVIII-11
モーツァルト／コンサートアリア《私は行く、でもどこへ?》K.583
モーツァルト／コンサートアリア《偉大な魂と高貴な心》K.578
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より コンスタンツェのアリア《あらゆる苦しみ》
ハイドン／交響曲 第96番 ニ長調 Hob.I-96《奇蹟》
ピアノ：小田切美穂
ソプラノ：西田真由子

第7回 2008年11月8日 いずみホール 第126回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《天地創造》Hob.XXI-2(全曲)
天使ガブリエル、イヴ(ソプラノ)：木村能里子
天使ウリエル(テノール)：西垣 俊朗
天使ラファエル、アダム(バス)：松下 雅人
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

第8回 2009年3月28日 いずみホール 第128回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第92番 ト長調 Hob.I-92《オックスフォード》
ハイドン／チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb-2
ハイドン／交響曲 第94番 ト長調 Hob.I-94《驚愕》
チェロ：河野 文昭

第9回 2009年4月29日 いずみホール 第129回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob.I-88《軍隊》
モーツァルト／ハ短調ミサ K.427より《主を讃えよ》
モーツァルト／《コジ・ファン・トゥッテ》K.588より
フィオルディリージのアリア《岩のように動かずに》
ハイドン／協奏交響曲 変ロ長調 Hob.I-105
ハイドン／交響曲 第101番 ニ長調 Hob.I-101《時計》
ソプラノ：櫻井 孝子
ヴァイオリン：釋 伸司
チェロ：日野 俊介
オーボエ：中江 暁子
ファゴット：佐伯 利之

第10回(アンコール公演) 2009年12月13日 いずみホール 第132回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3(全曲)
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗
シモン(バス)：田中 勉
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)



門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



木村能里子 ●ハンネ, ソプラノ

Norico Kimura, Hanne, Sopran

大阪生まれ。1981年武庫川学院女子大学音楽学部在学中ドレスデン国立歌劇場オペラスタジオのオーディションに合格し、5年契約を結ぶ。1985年ドレスデン国立歌劇場ソリストとして正団員契約を結び、ゼンパーオーバー修復完成公演に出演。さらにバッハ生誕300年記念公演に出演し、その演奏は全ヨーロッパ及び日本で放送された。1986年ヴァイマル国民劇場ソリストとして正団員契約を結ぶ。一方、古楽アンサンブルのソリストとしても活躍。1989年インスブルック古楽週間における演奏はオーストリア放送協会により、また1990年レーゲンスブルック古楽週間における演奏はバイエルン放送協会によりそれぞれ放送、さらに1996年にはストラヴィンスキーならびにシュールホフのオーケストラ歌曲をCDレコーディング。オーケストラとの共演も数多くリート歌手、宗教音楽のソリストとしてもヴァイマルを拠点として活発に活動。現在ヴァイマル・リスト音大講師。益子務、リタ・シュトライヒ、ウォルター・ムーア、ノーマン・シェトラの各氏に、またバロック唱法をルネ・ヤコブス氏に師事。モーツァルト室内管弦楽団との縁は深く、1988年の東ドイツ演奏旅行のソリストとして現地参加。また、1992年の《戴冠式ミサ》、1997年のシューベルト《ト長調ミサ》、2007年のオラトリオ《四季》、2008年のオラトリオ《天地創造》のソリストとして定期演奏会に出演。



西垣俊朗 ●ルーカス, テノール

Toshiro Nishigaki, Lucus, Tenor

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータオラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マイア受難曲」「ヨハネ受難曲」等のエヴァンゲリスト歌いとして高く評価されている。オペラでは、1976年東京オペラ・プロデュース公演のロッシーニ「オリー伯爵」でデビューし、その後、ロッシーニ・テノールとして「セヴィリアの理髪師」「オテッロ」「チェネレントラ」に出演。特に「セヴィリアの理髪師」のアルマヴィヴァ伯爵役には定評がある。またモーツァルトのオペラも得意としており、モーツァルトの五大オペラ《魔笛》、《ドンジョヴァンニ》、《ジ・ファン・トゥッテ》、《フィガロの結婚》、《後宮よりの逃走》全ての主役に出演。関西二期会と大阪音大オペラハウスのこのシリーズで好演している。大阪音楽大学講師。



田中 勉 ●シモン, バリトン

Tsutomu Tanaka, Syimon, Bariton

デビュー以来、「フィガロの結婚」を皮切りに、「賢い女」、「宮廷楽士長」、「イタリアのトルコ人」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「道化師」、「スザンナの秘密」、「赤い陣羽織」、「こうもり」、「ピーター・グライムズ」、「子供と魔法」、「カルメル会修道女の対話」、「修禅寺物語」等多くのオペラに出演しキャリアを築いた。これらが評価され、'84年文化庁芸術家国内研修員、'90-'91年文化庁芸術家在外派遣研修員としてウィーン国立音楽大学で研鑽を重ねた。帰国後、前述演目の再演以外でも、「椿姫」、「ラ・ボエーム」、「リゴレット」、「ハルカ」、「蝶々夫人」、「トロヴァトーレ」、「アイーダ」、「ファルススタッフ」、「夜間飛行」、「フィデリオ」、「源氏物語」、「夕鶴」、「エウゲネ・オネーギン」、「アドリアーナ・ルクヴール」、「沈黙」、「モモ」、「トゥーランドット」等、枚挙にいとまがない出演を誇っている。海外においてはルーマニアで「散華」に出演、'05年にはルーマニア・ヤシ歌劇場に招聘され、現地でリサイタルを開催。また、'06年にはイタリアのブッチーニ・フェスティバルに参加し、いずれも高い評価を受けた。一方オラトリオやベートーヴェン「第九」のソリストとしても関西の枠を越えて全国的に活躍している。また「なみはや国体」開会式と閉会式で「君が代」を独唱する等、地域の活動にも積極的に参加している。第22回なわ芸術祭新人奨励賞、第1回JSG国際歌曲コンクール聴衆特別賞。'99年和泉市文化功労賞。'00年「ファルススタッフ」歌唱、演技に対し第20回音楽クリティック・クラブ本賞。04年度「ファルススタッフ」の再演に対し大阪舞台芸術賞本賞。大阪音楽大学大学院歌劇専攻修了。現在、大阪音楽大学教授。関西歌劇団理事。日本シューベルト協会会員。

第133回定期演奏会

2010年1月10日(日) 午後3時 ●いずみホール

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第7回
〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第9回

モーツァルト：オペラ《後宮からの誘拐》K.384
(全曲/演奏会形式上演/日本語字幕・日本語せりふ付)

コンスタンツェ：津山和代(ソプラノ) ベルモンテ：西垣俊朗(テノール)
ブロンデ：高嶋優羽(ソプラノ) バドリック：二塚直紀(テノール)
オスミン：松下雅人(バス) 太守セリム：要 冷蔵(語り役)
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)
指揮：門 良一

第134回定期演奏会

2010年3月27日(土) 午後2時 ●いずみホール

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第8回
〈モーツァルトとハイドン〉その4

ハイドン：交響曲 第83番 ト短調《めんどり》
モーツァルト：ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K.595
交響曲 第40番 ト短調 K.550 他
ピアノ：奥村智美 ソプラノ：田中潤子
指揮：門 良一



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart-Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、39年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス（'85、'87年）、シブリアン・カツァリス（'93、'94年）、ペーター・ダム（'83、'86、'88、'98、'00年）、ウィーンフィル木管アンサンブル（'86年）、ライナー・キューヒル（'90年）らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シテリオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙げて絶賛を浴びた。—「すばらしい成果」（毎日新聞）、「この楽団は注目」（朝日新聞）。2007年より「没後200年記念ハイドン・シリーズ」を、2009年からは「創立40周年シリーズ」を始めている。

モーツァルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	稲葉 宏 己	中村 公 美	小 椋 順 二
	中川 衛 子	幣 晴 代	北田 由 美	佐 藤 明 美
	稲庭真理子	道 幸 明 美	大 江 浩 志	垣 本 奈 緒 子
	北村 奈 美	白木原有子	本庄ちひろ	トランペット
	森 住 憲 一	松 井 紀 子	戸田めぐみ	大 西 由 起
	菊 池 優 理	高野ちか子	忽那有紀子	トロンボーン
	中野 瑞 己	日 野 俊 介	高 橋 博	岡 村 哲 朗
	中野 瑞 己	日 野 俊 介	門 小 夜 子	三 田 博 基
第2ヴァイオリン	本多 智 子	仙 波 房 子	佐 伯 利 之	ティンパニ
	清水めぐみ	若松さより	倉 永 晴 美	トリアングル
	川島多美子	石 塚 俊	羽 生 尚 代	タンブリン
	納庄麻里子	関 一 平	垣 本 昌 芳	チェンバロ
	納庄麻里子	関 一 平	垣 本 昌 芳	田 中 実 子



モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮●益子 務)

Mozart-Choral Ensemble (Chor-Dirigent / Tsutomu Masuko)

「本番のステージで柔軟に音楽をすることのできるプロフェッショナルなコーラスがほしい」という、モーツァルト室内管弦楽団の要望を受け、特別に編成された合唱団。女声は堺シテリオペラの選抜メンバー（若手プロ）を中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダー・クラスに参加を要請、1991年7月末に発足し、益子 務氏の指揮のもとに練習を開始した。同年12月モーツァルト室内管弦楽団のモーツァルト没後200年記念第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演、それ以後、ミサ、オラトリオ、オペラなどで毎年協演し、中でもモーツァルト「ハ短調大ミサ」、「救われたベトゥーリア」、「イドメネオ」、ハイドン「天地創造」、「四季」、ヘンデル「メサイア」、ベルリオーズ「キリストの幼時」などは絶賛を浴びた。93年には初の単独自主公演としてジャンヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催、大好評を得た。98年、00年の2回、ベルギー・フランドル政府の招きにより文化交流使節としてベルギー演奏旅行を行い、大成功を収めた。00年、創立10周年記念としてCD「ロッシェニ：小荘厳ミサ」をリリース。

モーツァルト記念合唱団／出演メンバー

合唱指揮 ● 益子 務

ソプラノ	大家 慈子	佐々木智世	銭田 美幸	谷本 由美	友金 郁子	中田 佳代	平芳真寿美
	御池あゆみ	山本 真紀					
アルト	以倉安希子	大矢喜久子	金田智津子	佐野 康子	中口真由美	中根 佳江	林 理恵
	森田 裕子						
テノール	大當 康博	岡本 弘信	桑田 明和	近藤 達夫	陶山 悟嗣	辻幸 二郎	豊田 耕平
	豊田 千之	中村 達雄	古川 完				
バス	小島 博	野村 透	林 龍太郎	ピーターフィンケ	藤卷 恵	米岡 実	山口 勝平
	渡邊 守						
練習ピアノ	岡田 千絵	田中 実子	渡里 拓也				
字幕オペレーター	横家 愛恵						

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
 理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 特 別 社 友) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 險 相 互 会 社 名 誉 顧 問)
 (50音順)
 顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)
 伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	高松建設	三井住友カード
井上冷熱	住友金属工業	日本通運京都旅行支店	ワコー
大阪ガス	住友精密工業	濱田プレス工業	*
大関西電力	住友生命保険	林友生倉庫	日本セルフ
きんでん	住友倉庫	福山製紙	
小林製薬	ダイキン工業	丸山興産	
阪野商店	大同ケミカルエンジニアリング		

個人会員 (入会順、敬称略)

松井 繁一	橋本 太三雄	阪野 和子	神林 恒道	中谷 庄八	野原 清秀
深田 晴世	阿部 由美子	森 明子	岡野 昌樹	豊田 紘生	大西 理都子
河野 幹雄	中川 泰幸	宮川 泰済	岡野 恵津子	奥野 哲久	堀 正二
河野 奈津子	石上 豊子	和田 暁夫	杉浦 和子	平岡 龍人	中野 勇
福岡 隆子	村本 孝夫	桑名 孝子	脇田 修	平岡 禮子	松井 基純
梅原 一哲	松本 幸道	石光 正男	野村 透	大西 勇	松井 香代子
石本 三千也	笹川 忠士	松枝 正明	佐野 雅祥	飯田 祐子	山本 春子
田村 眞也	緒林 桂子	松枝 多加子	今井 安男	森野 多聞	山本 道子
竹村 治彦	確井 昭彦	光成 博次	玉手 隆子	宮井 芳子	和葉 嘉夫
岸田 克己	確井 みち子	高杉 方宏	野崎 志朗	塩脇 昭司	大磯 隆一
梅村 博也	長井 重龜	川島 弘章	橋本 靖昭	塩脇 祥子	中村 多美子
屋良 亘佐治	岸田 多門	川島 啓助	冠 大五	一木 晃	細井 提吉
國友 正和	能田 豊	坂本 綽子	有賀 熙雄	岩崎 弘一	大谷 弘枝
梅田 文一	森内 達治	中井 武司	佐野 哲郎	河 清子	満谷 昭夫
稲垣 千代子	宮井 茂治	中井 佐和子	小柳 陽一	佐竹 時子	原 喜代志
浮田 俊太郎	祐野 尚子	西森 文彦	田中 四郎	千 宗守	大原 清司
桑山 弘	金定 秀光	岸田 孝之助	村西 良彦	荒木 陽子	大原 典子
三谷 郁子	金定 嘉也子	豊田 成子	島村 猛	宮崎 悦朗	伊藤 久栄
田中 喬	中條 澄	切畑 敦詞	河原 恭子	栗原 順子	福谷 巖
天野 康英	中嶋 允子	中東 富佐子	松井 とも子	谷口 勝昭	山村 哲夫
三浦 信一郎	福岡 昭吉	金盛 琢志	得田 栄藏	完倉 正信	速水 洋紀
水島 敬夫	菅 正徳	三石 武男	菱谷 勝次郎	野口 祐三	安井 敏雄
渡辺 優子	日高 穂	内藤 芳美	足立 宣治	野口 外志子	松井 基純
平川 美津子	藤原 啓助	小西 信一郎	東 武次郎	森本 武	松井 香代子
安藤 邦洋	馬場 明和	佐野 廣子	竹林 大	小山 浩	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。)
 随時ご入会いただけます。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ダイヴェルティメント」をお送り致します。